

talk! talk! talk! 俳優・吉沢悠さん



俳優 吉沢悠さん

デビュー以来ドラマ、映画と数多くの作品に出演し続けてきた俳優、吉沢悠さん。役をこなすごとに着々と実力を伸ばし、端正な容貌と豊かな演技力で俳優としての地位を確立。若い女性を始め多くのファンを魅了している。
今回は、俳優の魅力について、またプライベートショットを紹介していただきながら趣味の写真撮影についてたくさんのお話をうかがった。

プロフィール

よしざわ・ゆう。1978年、東京都生まれ。1998年、ドラマ「青の時代」（TBS系）で俳優デビュー。以後、数多くのドラマ、映画を始め、CM、ラジオ、ドキュメンタリーなど幅広く活躍する。趣味は写真撮影以外にサーフィンなど。これまでの代表作にドラマ「アルジャーノンに花束を」（2002年、フジテレビ系）、「動物のお医者さん」（2003年、テレビ朝日系）など。2004年に放送された「エースをねらえ！」（テレビ朝日系）ではヒロイン岡ひろみが憧れる藤堂先輩を演じる。2003年に初主演作となった映画「星に願いを。」（富樫森監督）では失明し、その後一度死んで生まれ変わるという難しい役を好演。2004年には「Believer」（多胡由章監督）でイメージを一新し、詐欺師役にチャレンジした。
今後の活動は2005年2月5日より、「着信アリ2」（塚本連平監督）が全国東宝系にて公開される。携帯電話に自分からの着信が入り、恐怖に震える自分の声がメッセージとして残される。着信時間として表示された3日後、その通りの声を上げ死んでしまう……携帯電話によって呪いの恐怖が連鎖するというホラームービー。吉沢さんは死を予告された恋人、杏子を救うため死力を尽くす桜井尚人を演じる。また、今春放送予定のドラマ「水曜プレミア・恋愛内科25時」（TBS系）に主演、3月9日にはグリーンランド体験のドキュメンタリー番組「たけしの地球極限スペシャル 人類20万年！奇跡の旅」（TBS系）に出演する。

「あ、いい顔してる」と感じたら撮っておかなくちゃと思う

写真を撮り始めたのはいつ頃からですか？

7年前テレビ局の番組でタンザニアに行ったときにカメラを持っていってみようと思ったんです。おじいさんがカメラ好きでいろいろ持っていたので「使わないカメラがあったら貸してよ」と言って借りたのが初めですね。でもそのときはほとんど撮らなかつたんですよ。それより現地の子供にカメラを渡したら面白いかなと思って撮ってもらったりしていました。ノリで撮るからファンダーをちゃんと覗いていないんですよ。だから首から下が写ってなかったり切れていたり、そんな写真ばかりでした。

それをきっかけにカメラを手にするようになったんですね。

そうですね。始めの頃は凄くハマっていて、友だち同士でふざけて撮ったり、夜中でもいろいろの所に出かけて撮ったり。映画のワンシーンを切り取った感じというか、何かストーリーを感じる写真を撮るのが面白いなと思って、いろいろ作り込んだ写真を撮っていましたね。たとえばお金をバラまいて、そこに偽物の拳銃を持たせて寝転がって撮ったり、友だちをトランクスードにしてヘルメットとサングラスをつけて、僕がアフリカから持ってきた弓矢を持たせてバイクにまたがっているところを撮ったり。

（笑）楽しそうですね。

楽しかったですよ。結構凝ってましたから。でも、しばらくしてカメラに興味がなくなって離れた時期もあるんですよ。でもまた突然撮りたくなったりするんです。波みたいで、何回か離れたりハマったりしていますね。今現在はハマっている時期に比べたらそれほど撮ってないんですけど、まあ、普通に撮りたいときに撮るという感じですね。

今はどんなものを撮っているんですか？

風景も撮りますが、友だちとか人を撮るのが好きですね。一時期、人を撮るのが凄く楽しくて、知らない人に声をかけて撮っていたこともありました。入ったお店にかわいい子がいたら、撮らなきゃと思うんですよ。「写真が趣味なんですけど撮らせてもらえませんか」と声をかけて。それはさすがに今はできないですけど。

人を撮る面白さとはなんですか？

なんでしょう。顔に感情が出ているような人を撮るときは面白くなって思いますね。どんな気持ちでもいいんですけど、何か表情に現れたときに「あ、いい顔してるな」と感じたら、撮っておかなくちゃと思うんです。とにかく撮りたい！って思うから撮る、それだけです。



構図よりもアングルを意識 でも基本は「気持ちが乗ったときにシャッターを押す」



これは沖縄にファンクラブのイベントで行ったときに撮った写真です。人ではなく石を撮ったんですけど、これも人間っぽく撮りたいなあと思って、葉っぱの向こうから覗いている感じにしてみました。シーサーってなんか怖いから。怖いものが向こうから見ていて、こっちも葉っぱ越しで見れない、というような感じにしたら面白いなと思って。

そういうふうな構図も考えて撮っているんですね。

いや、この写真はそうですね。普段はあまり考えないで撮ることの方が多いですよ。以前はいろいろ考えて撮っていたんですよ。黄金分割比がどうか聞いて、ここにスペースを作ったほうがいいのかとか、左右対称にしてみようかなとか。あと明るくしてみようとか、暗くしてみようとか技術的なことも研究して撮ろうと思ったり。でも、よく理解できなくて、いいと思ったものがいい写真なんだと思ったら、もう技術的なことはいいやってなつて。今は、どんなカメラを使おうがどう撮ろうが、ワーって気持ちが乗ったときにシャッターを押せばいい。偶然でもいいのが撮れたらラッキーっていう、そういう感じで撮っています。

沖繩の守神シーサー。あちらから様子をうかがっているようだ



吉沢さんはサーフィン好き。休みがあればすぐにでも海に行きたいそうだ



パリに旅行に行ったときに撮影。シャイな様子がとてもかわいい

このサーフィンの写真はまさにそのような感じですね。偶然にもいい具合にしぶきが上がって。

これは友だちとサーフィンに行ったときに撮ったんです。どういうライディングをしているかお互いに撮り合って、どれくらい上達しているか見てみようって言って撮影したんですよ。こういう構図を狙って撮ろうとか考えたわけではなくて、ほんとに偶然に押したら撮れてしまった。

あ、でも構図よりは高さを気にすることはよくありますね。

カメラのアングルですか？

目線ですね。子供を撮るときは子供の目線の高さに構えてみようとか、極端に言えばアリを撮るときはアリの目線に行きたいなのというのは考えます。

今もこうやって（カメラマンを指して）撮られていますけど、取材などの仕事で写される側になることも多いわけですよ。そうすると、下からレンズを向けられると子供に見られているとか、上から向けられると外国人みたいだなとか感じるんです。だから撮るときも意識するのかもしれないですね。

この子供はちょっと大人の目線から撮影されていますね。

そうなんです。同じ目線で撮りたかったんですけど、もの凄いい見知りの子だったからちょっと離れて撮っていたんですよ。心の距離も離れていたんでしょうね（笑）。

無意識に撮った写真から自分がどんな目線を持っているのか教えられる

この写真は自分で自分を撮られたのですか？

そうです。公式ホームページがあるんですが、それに載せるために自分を撮ることがあるんですよ。これはカラーよりモノクロにしてみたら面白いかなと思って撮って見たんです。でも、こういう写真を自分で撮るのは本当に恥ずかしいですよ。今見てももの凄く恥ずかしい。

吉沢さんが撮影した写真をホームページに載せることはよくあるのですか？

ええ、載せますよ。あとファンクラブがあってその刊行誌にも載せてもらったり。仕事としてそういう場があるのはありがたいことです。たとえば何か伝えたいことがあったら、それを写真に込めて撮って、見せる場があるということですから。そういう方法で意志を伝えるのもアリなんだなとか、そういうことができる可能性があるんだなと思いますね。

そういう意図で写真を撮ったことはありますか？

うーん、撮ってみたいという思いはありますが、今はあまりそういうことを考えて撮ってはないですね。撮っているのが楽しいというだけなので。でも撮っているのは僕なので、僕らしさみたいなものは見る人に伝わっているかもしれないですね。「こんな感じで撮るんだな」ってだけでも僕らしさがあるのかもしれないし。

そうやって人から感想を言われて、自分はそうなんだなって発見することはあります。自分でも「こういう目線を持っているんだな」って写真を見て気づかされるときもあるし。無意識に撮ったものから教えてもらえる、自分がわかるという意味でも写真は面白いですね。



映画の撮影で夕張を訪れたとき、撮影の合間にホテルでひとり撮影したのだとか

俳優は役を通して自分を表現し メッセージを伝えることができる

俳優になるのは小さい頃からの夢だったのですか？

いえ、小さいときは漠然と公務員になりたいなと思っていました。あまり波風を立てたくないような性格だったんですよ。

でも、事務所レッスンを受け始めてから、最初は発声したり台本読んだりちょっと面白くなかったんですけど、あるドラマの監督のレッスンで「このボールに今の自分の気持ちをぶつけてみる！」と言われて。そのレッスンを受けて以来、自分を表現することって楽しいなと思い始めたんです。それで、僕はどうしてもこの仕事でいるんなら自分に発信していきたいんだという気持ちになったとき、デビューが決まって現在に至る、という感じですね。

自分を表現するとおっしゃっていましたが、役を演じながら自分を表現するというのはどういことなのでしょう？

たとえば写真であれば、同じ被写体でも僕と友だちとは違う写真を撮ると思うんですよ。それと同じで、役と一緒に演じる役者によってまったく違う人物になるんです。キャラ設定は決まっているかもしれないけれど、その人の見た目や声のトーンでも違うし、役者の個性というのが必ず出て来ます。僕ならではの人物像になれるというところで自分を表現できるんです。

そこに俳優という仕事の魅力があるんですね。

ええ、本当に面白い仕事ですね。自分から出てきたものを、役を通してメッセージとして出していこうという気持ちで演じるようになってからは特に。

逆に、辛い面、難しい面というのは？

うーん、たとえばドラマのある役をやるとして、そのドラマの全体のテーマが理解できないとき、自分がこの役をやる意味が見えなくなることがあるんです。最後までその役を理解できないということは今までなかったんですけど、見えていないときは難しいです。芝居してもどこに向かっていいのかわからないし、台詞も頭に入らないんですよ。この役を通して、自分はどんなメッセージを発信したいのか明確にならないと辛いですね。



とても人懐っこい台湾の野良犬。コンビニエンスストアに入ったとき、なぜか店内でうろろろしていたそうだ



吉沢さんの友人を撮影。
青い空と豪快な笑顔が絵になる

次回作映画「着信アリ2」 恋人を一心に思う尚人の強い気持ちに注目

2月に公開される映画「着信アリ2」では、桜井尚人という主人公の恋人役を演じていますが、この役を通してどのようなメッセージを伝えたいと思ったのですか？

この映画のラストシーンにどんな意味があるのかと考えたときに、この役のテーマは自分が好きな人のためにどれだけ思いを持てるのかというところがポイントだと思ったんです。自分でも尚人はどういう男なのかいろいろ考えましたし、周りの方にも好きな人を守る男はこうだとか説明を受けたんですけど、僕はここまで相手を思えるかと思ったときにその心理が明確に理解できなかったんですね。ただ尚人の行動にも惹かれる部分があったので、きっと演じていくうちにそこに気持ちが入って行けば何かわかるんじゃないかとは思っていました。

尚人の行動で惹かれた部分というのは？

ホラー映画なのでいろいろと恐いことが起こっていくわけなんですけど、尚人は杏子（主人公）のごとしか考えてないんです。杏子さえ生きてくれればそれでいい、ずっとそのことしか考えないヤツなんです。理解はできなくても、これだけ人を一途に思えるというのは凄いなと思ったんです。

実際に演じてみていかがでしたか？

共演者のことなんてどうでもよくなりました（笑）。杏子のごとだけしか見ていませんでしたから。

演じてみて、自分の中にも相手を思う気持ちが強くあるんだなというのを感じました。メッセージとしてこれを伝えたいんですというのははっきり言葉にできなかったんですが、そういう尚人の姿を見て、何か感じ取ってくれたらいいですね。普段、あたりまえのように自分の周りにいてくれる人の存在の大切さが分かるんじゃないかなと思います。

この映画の見どころを教えてください。

尚人としては、やっぱりラストシーンですね。ラストに向けて「尚人の思いがどう動いて行くのか」というのがひとつの見どころだと思います。あとは携帯電話を通じて呪いが連鎖するという部分で、みなさん今携帯電話を持っていると思いますので、ふと、映画を見たあとに自分の携帯電話に自分から電話が掛かって来たらということを想像してほしいですね。ホラー映画の恐さも充分に楽しめる映画だと思いますよ。



映画「着信アリ2」
（塚本連平監督／2005年2月5日
より全国東宝系にて公開）
携帯電話を通じて呪いが広がって
いくというホラー映画。
2004年に公開され大ヒットと
なった「着信アリ」の第2段となる。
主演はミムラ、共演に瀬戸朝香など。

俳優をやっていく意味 今はそれが明確になった

これまでも様々な役を演じてこられたと思いますが、これからやってみたい役はありますか？

時代劇をやりたいですね。戦国時代とか、今では考えられない状況下であって昔の人は何を考えて何を体験したんだろうというのに興味があるんですよ。今自分の周りでは戦争なんて考えられないけど、その時代には日本人同士が殺しあっていたわけですよね。そういう思いを役を通して体験して、メッセージとして伝えられたらいいなと思います。

伝えたいことや表現したいことというのは常にアイデアとして持っていらっしゃるんですね。

それは常にありますよ。次から次へとかうしたい、やりたいというのが湧いてきて、尽きることはないんじゃないでしょうか。もちろんもらった役に対しても自分なりに感じて表現していきたいと思っています。でも、いずれは100%自分から発信して作品を作りたいです。機会があれば、いつでもやる準備はできています。

では最後に、今後の目標を教えてください。

これからも一歩一歩着実に、役者として成長して行きたいと思っています。それから、僕は役を通じて多くの人に発信できる仕事をしているので、これから先、自分に何かできることがあればメッセージを発信していきたいです。

俳優は仕事ですから、ただ役を演じていればそれでいいのかもわからない。でも、せっかくこの仕事をしているんだから、何か意味を持ってやりたいと思ったんです。最初は何も考えてなかったけど、今はそれが明確になったんです。

これからどのような役を演じて行かれるのか、楽しみにしています。

ありがとうございます。楽しみにしててください！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.